

令和6年度 第1回

札幌市救急医療体制検討部会

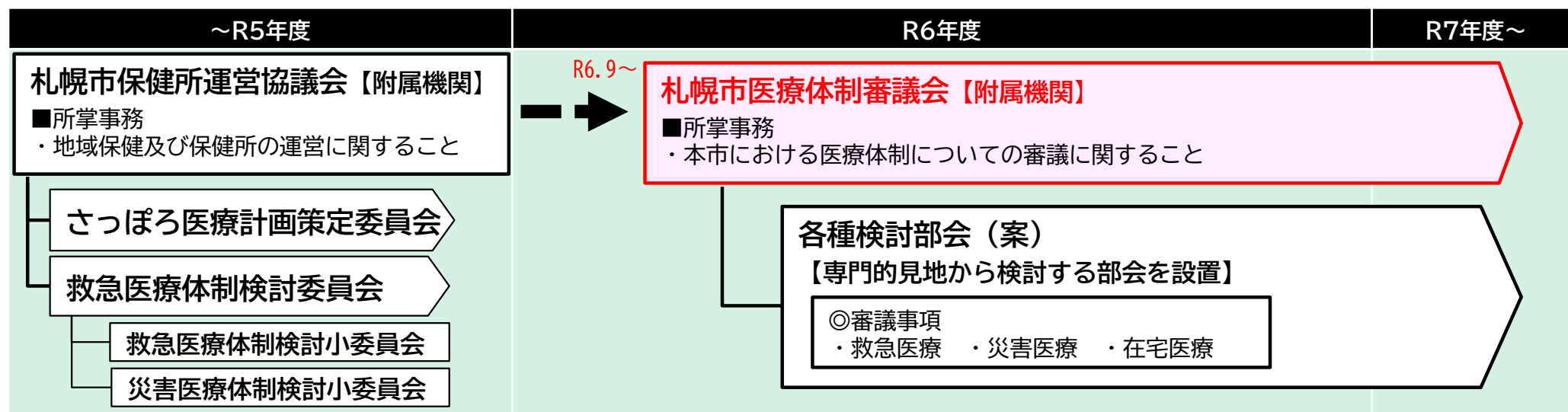
日時 令和6年12月5日（木）18時30分～

会場 ORE札幌ビル8階 ウェルネス推進部大会議室

札幌市医療体制審議会

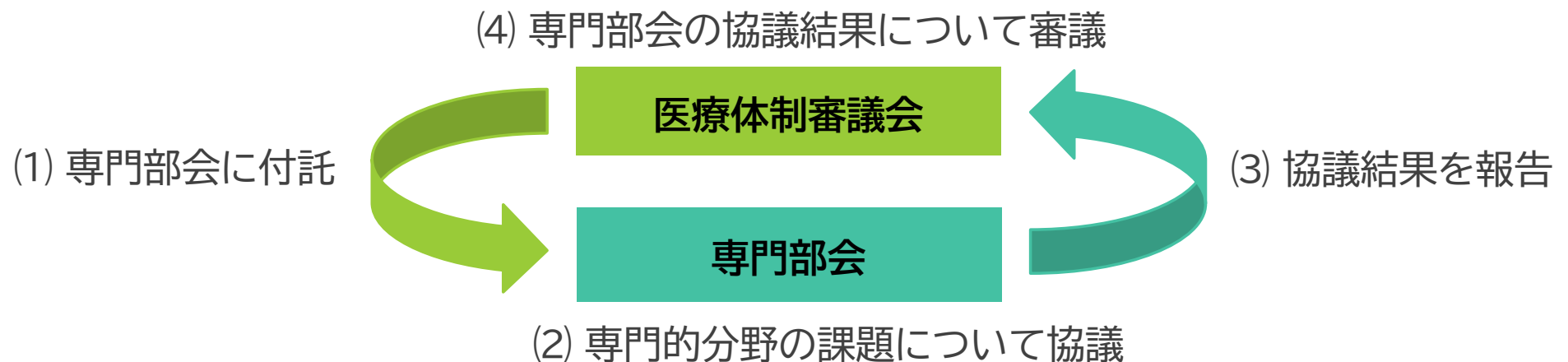
令和5年度までは、保健所運営協議会（附属機関）において、医療政策のほか、地域保健や保健所運営に関することを幅広く審議。

札幌市の機構改革に伴い、少子高齢化・人口減少等による医療需要の多様化・高度化を見据えた医療体制について、より集中的に審議するため、新たな附属機関として**札幌市医療体制審議会**を令和6年9月に設置。



救急医療体制検討部会の設置

令和6年10月9日に開催された札幌市医療体制審議会にて、救急医療、災害医療、在宅医療など専門的分野の課題については、専門部会を設置して協議することを決定。



救急医療体制検討部会の委員

氏 名（敬称略）	所 属 ・ 役 職	備 考
野中 雅	一般社団法人 札幌市医師会 副会長	審議会委員・部会長
中村 博彦	特定非営利活動法人 北海道病院協会 理事長	審議会委員
成田 吉明	一般社団法人 日本病院会 北海道ブロック支部 支部長	審議会委員
上村 修二	札幌医科大学 医学部 救急医学講座 准教授	審議会委員
田作 淳	公募委員	審議会委員
中村 雅則	一般社団法人 札幌市医師会 救急医療部長	医療関係団体
成田 慎一郎	一般社団法人 札幌市医師会 急病センター部長	医療関係団体
小林 大時	札幌市災害救急告示医療機関協議会 会長	医療関係団体
古田 博文	札幌市小児科医会 会長	医療関係団体
提嶋 久子	市立札幌病院 救命救急センター部長	三次救急医療機関
和田 剛志	北海道大学病院 救急医学教室 教授	三次救急医療機関
沢本 圭悟	札幌医科大学病院 救急医学講座 助教	三次救急医療機関
裕 光司	北海道医療センター 救命救急部長	三次救急医療機関
奈良 理	手稲溪仁会病院 救命救急センター長	三次救急医療機関
田口 大	勤医協中央病院 救急科長	二次救急医療機関
丸藤 哲	札幌東徳洲会病院 救急集中治療センター長	二次救急医療機関
平山 傑	札幌徳洲会病院 救急科部長	二次救急医療機関
南須原 康行	北海道大学 医療安全管理部 教授	有識者

1 現在の札幌市の救急医療体制について（報告）

これまでの救急医療体制に係る 検討事項

札幌市救急医療体制検討委員会（R4～R5）

（札幌市救急医療体制検討小委員会）

課題

救急搬送困難事例の増加

社会環境の変化（高齢者増）への対応

現行の救急医療体制の疲弊

課題への
対応策を
検討

- 二次救急医療体制の再構築
- 救急医療に係るシステムの導入

二次救急医療体制の再構築（R5以降）

【目的】初期・二次・三次救急の役割分担を明確にし、救急搬送時間短縮や救命率の向上を図る。救急の医療従事者の負担軽減を図る。

初期救急医療機関
(夜間急病センターなど)



救急患者

重症者
(三次相当)

中等症以上（要入院・手術相当）

搬送困難事案

課題① 二次当番病院の課題

救急患者の増加により、二次当番が本来受けるべき患者を受けきれず、拠点病院を圧迫

課題② 拠点病院(二次)の課題

・高齢者の増加により、複数診療科の介入が必要 など二次当番での対応が困難な患者が増加
・課題①により流れてきた患者の受入により、二次が受けきれない患者が三次救急を圧迫

三次救急医療機関
(救命救急センターなど)

重篤な症状の患者を受け入れるため、
24時間365日体制で救急患者を受入

対応策①～③により三次医療機関への負荷も軽減

二次当番病院

及び

専門当番病院

特定の診療科（単科）の救急患者を受入

循環器・
呼吸器系
1～2施設

消化器系
1施設

泌尿器系
1施設

小児系
1施設

脳神経
外科系
1グループ
(4～5施設)

けが災害
外科系
1施設

循環器系
(ACS)
1グループ
(4施設)

対応策① 二次当番病院の受入体制強化

出来高制の導入により二次当番の体制を強化し、受入可能な患者に確実に対応

救急搬送支援・情報収集・
統計分析システム

二次当番病院や拠点病院の受入可否を「見える化」し、救急搬送時間を短縮

令和6年2月から運用開始

拠点病院(二次)

原則24時間365日体制で、
診療科を問わず救急患者を受入

準拠点病院(二次)

特定の曜日や時間帯等において
診療科を問わず救急患者を受入

対応策② 拠点病院・準拠点病院

補助制度を新設し、拠点病院の受入体制を強化。搬送困難な患者の受入にはインセンティブを付与

令和6年4月から運開始

転院調整支援システム

後方支援病院の空床情報を「見える化」し、二次当番病院や拠点病院から後方支援病院へのスムーズな転院を支援

対応策③ 後方支援体制

救急状態を脱した患者の転院の受入を円滑化し、二次医療機関のベッドに余裕を持たせる。

後方支援病院等

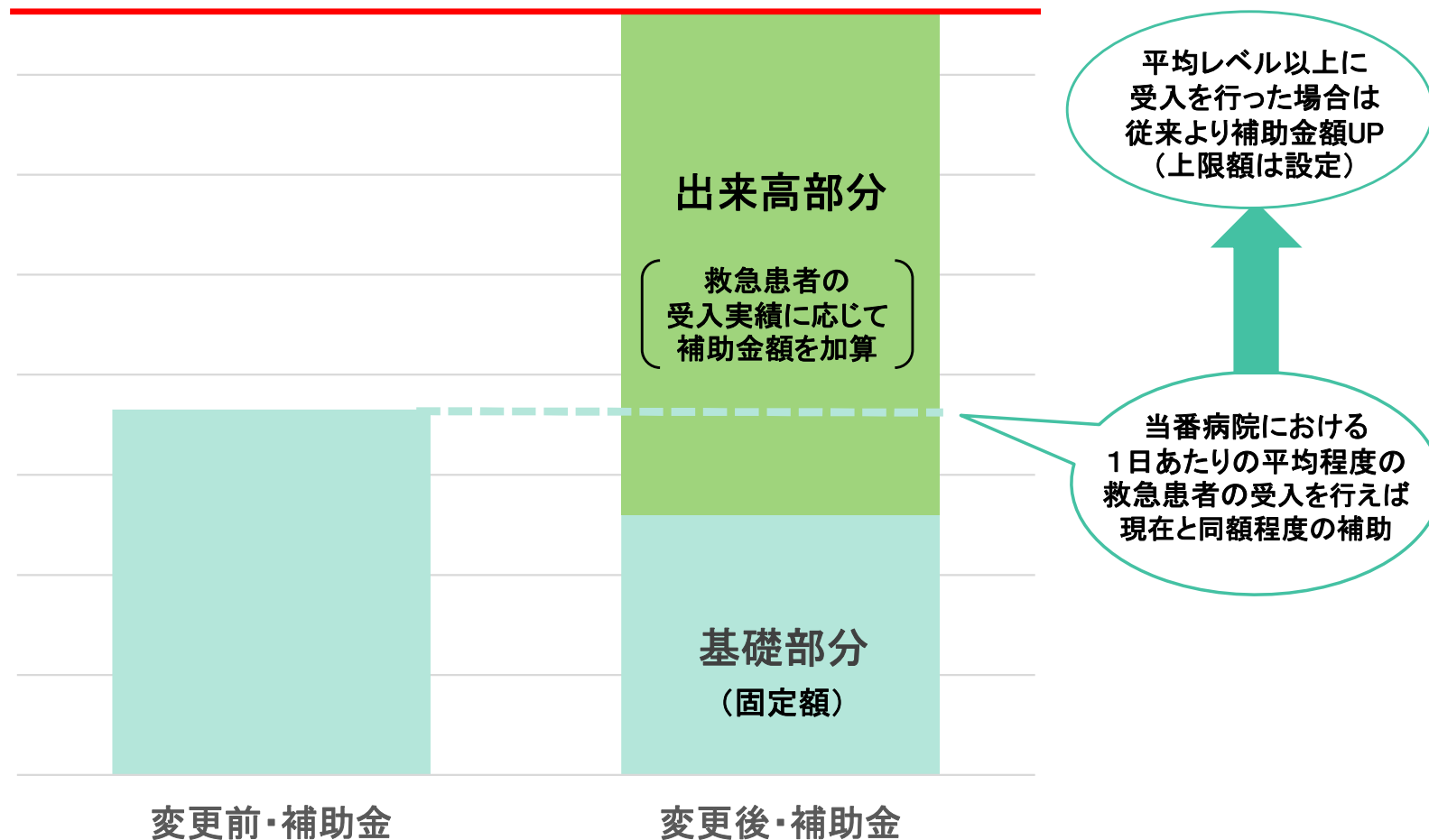
急性期の治療後も入院の長期化が見込まれる救急患者の転院を受入

転院

転院

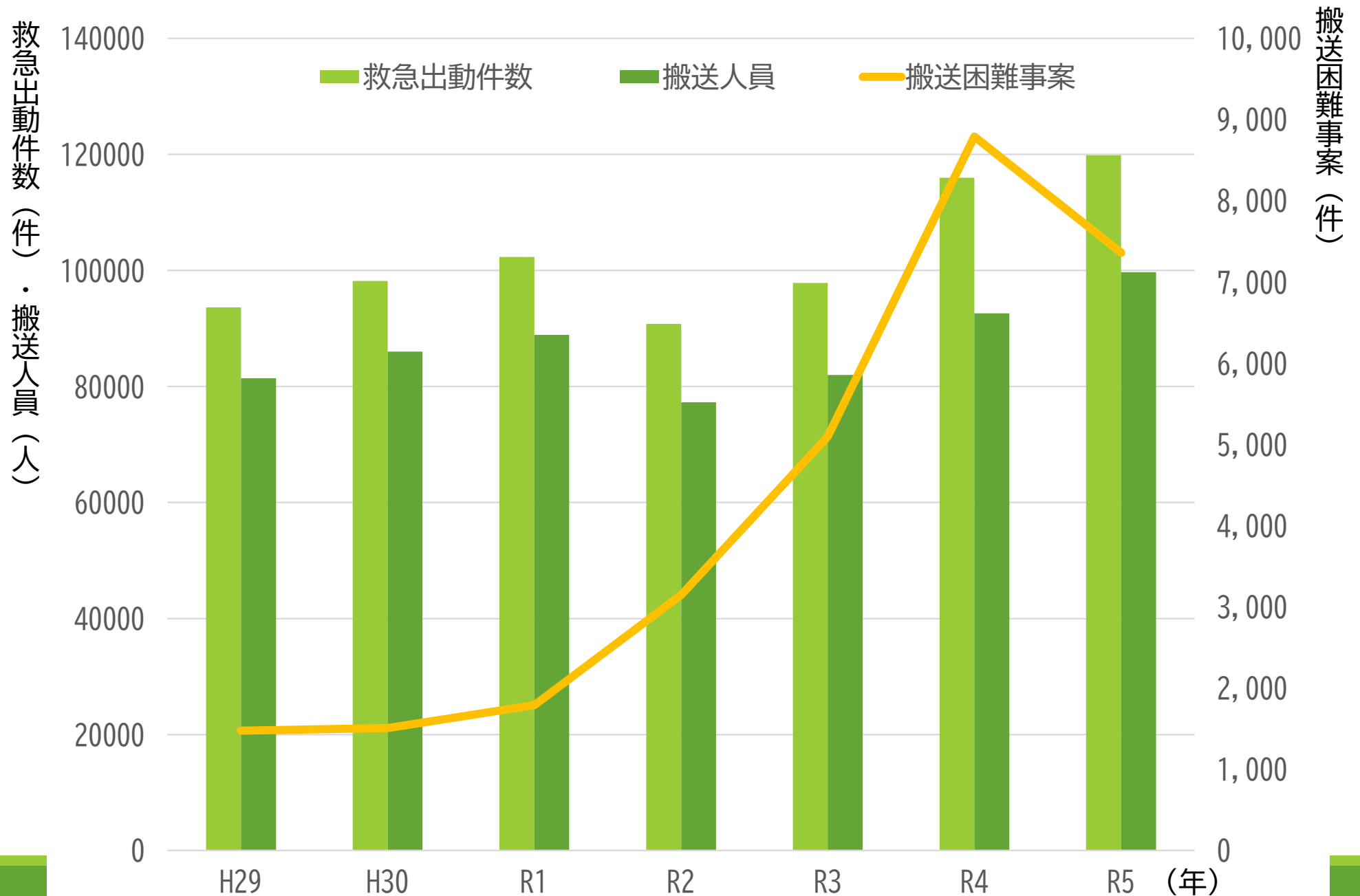
二次当番病院の受入体制強化

補助金：二次当番各診療科



統計情報

●救急出動件数、搬送人員数、搬送困難事案数



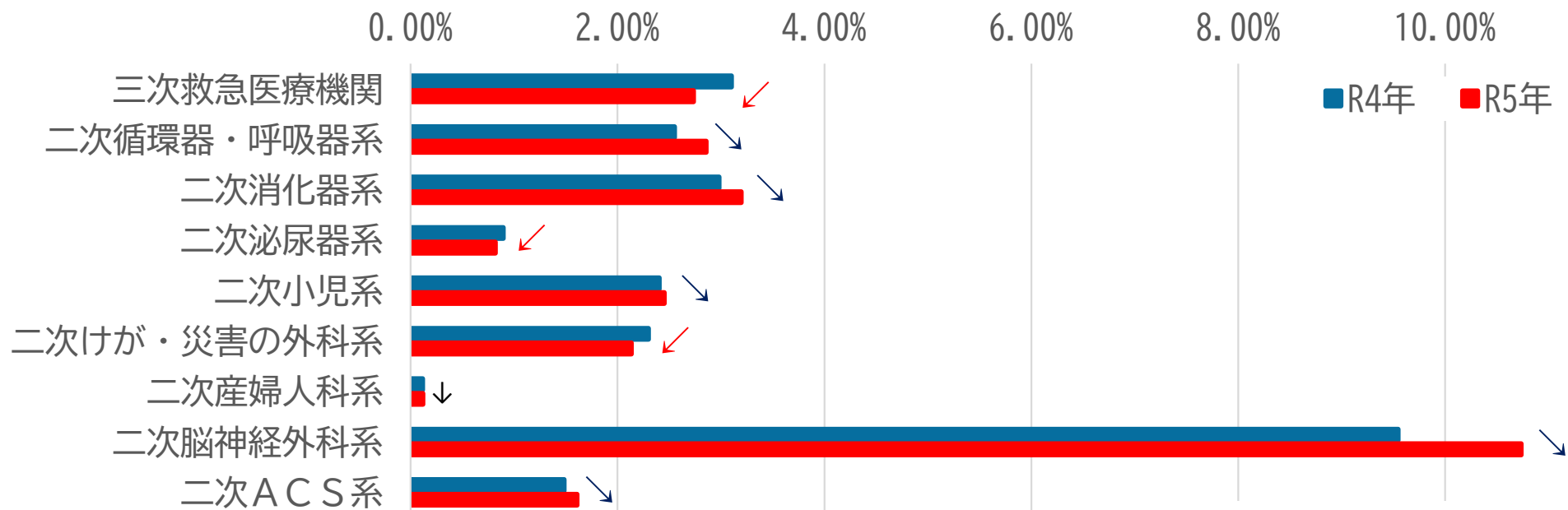
※札幌市消防局提供データより分析

●搬送先医療機関

搬送先	令和4年	令和5年	前年度比
三次救急医療機関	3.10%	2.74%	-0.36% ↓
二次救急医療機関	22.29%	23.93%	+1.64% ↑
当番病院以外	64.48%	62.89%	-1.59% ↓
初期救急医療機関	10.12%	10.44%	+0.32% ↑

※札幌市消防局提供データより分析

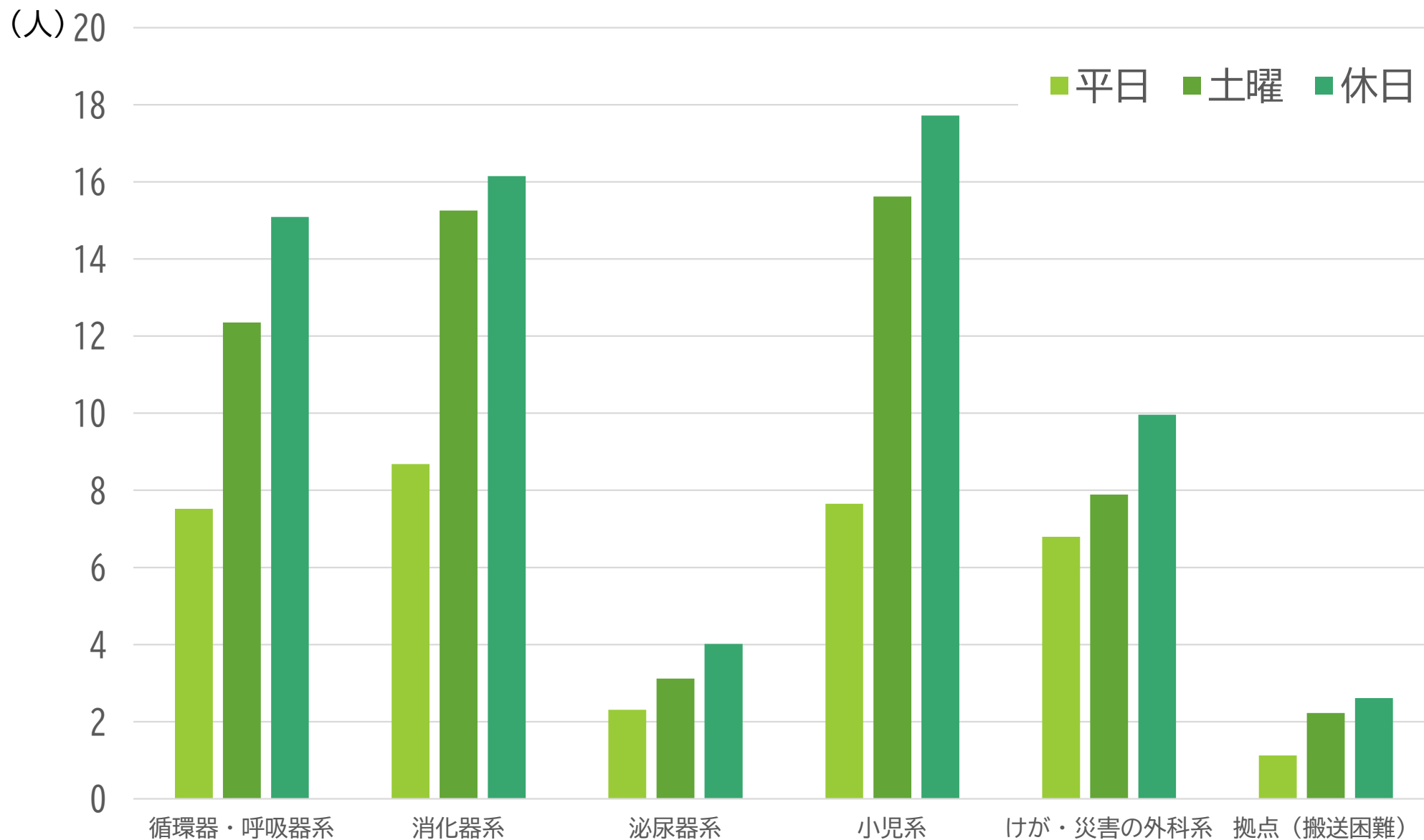
●救急搬送人数（三次・二次救急医療機関：搬送割合）



※札幌市消防局提供データより分析

統計情報

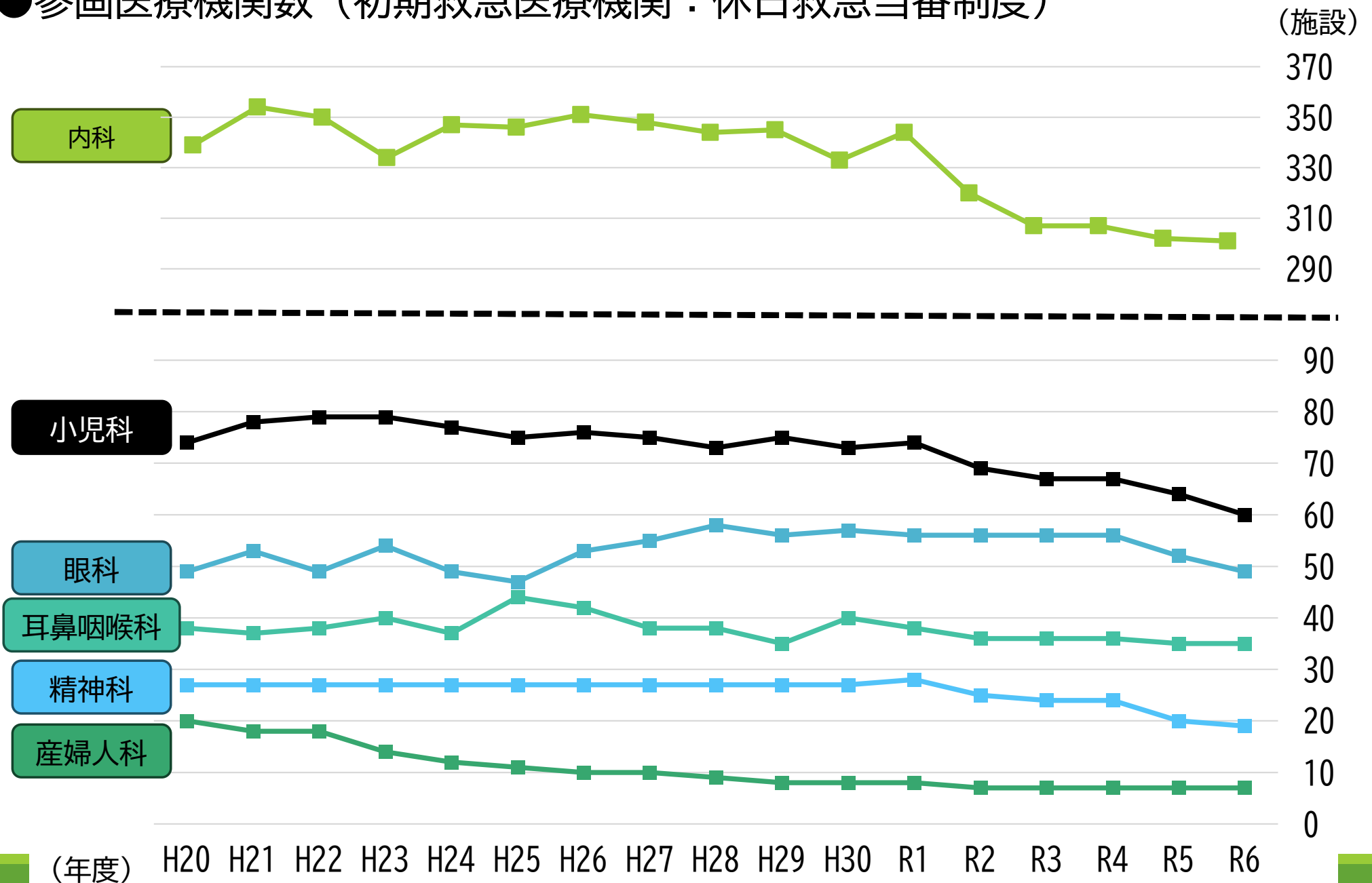
● 1 当番日 1 施設当たりの救急搬送人数（二次救急医療機関：令和5年度）



※札幌市消防局提供データより分析

令和6年度の統計情報

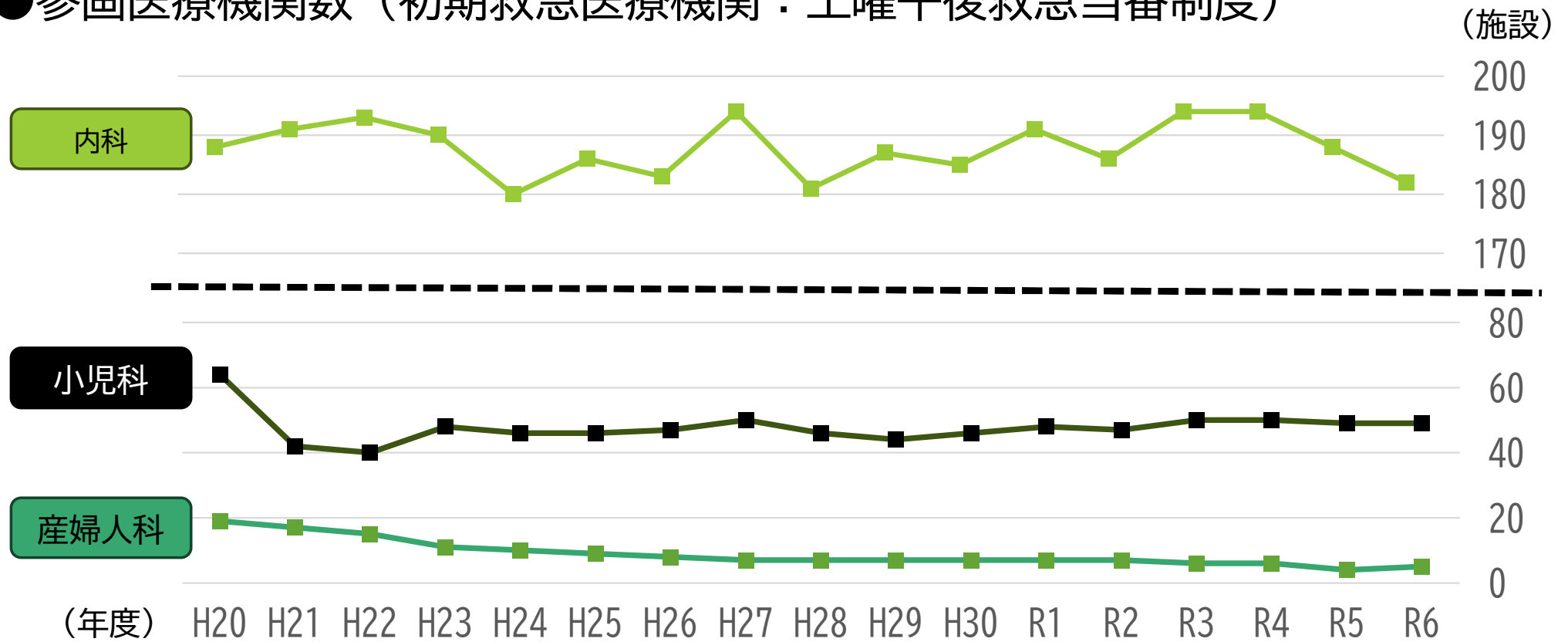
●参画医療機関数（初期救急医療機関：休日救急当番制度）



※札幌市医師会データより分析

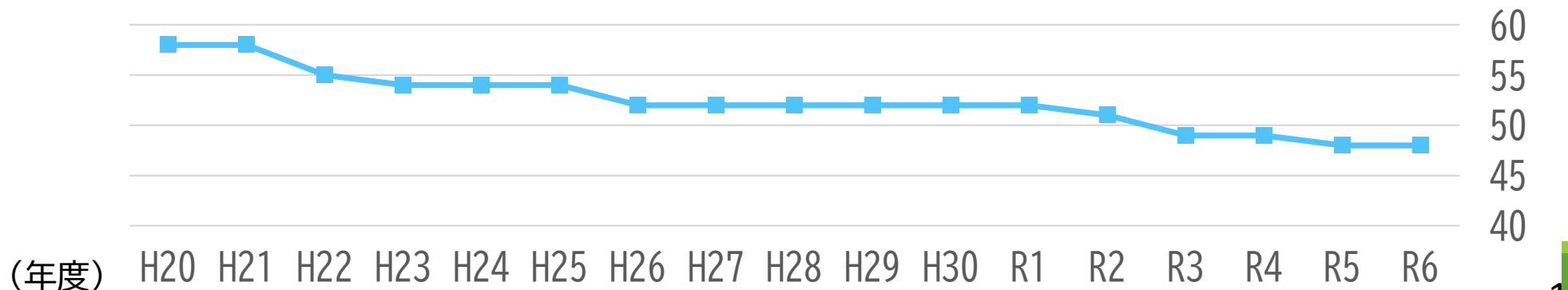
統計情報

●参画医療機関数（初期救急医療機関：土曜午後救急当番制度）



※札幌市医師会データより分析

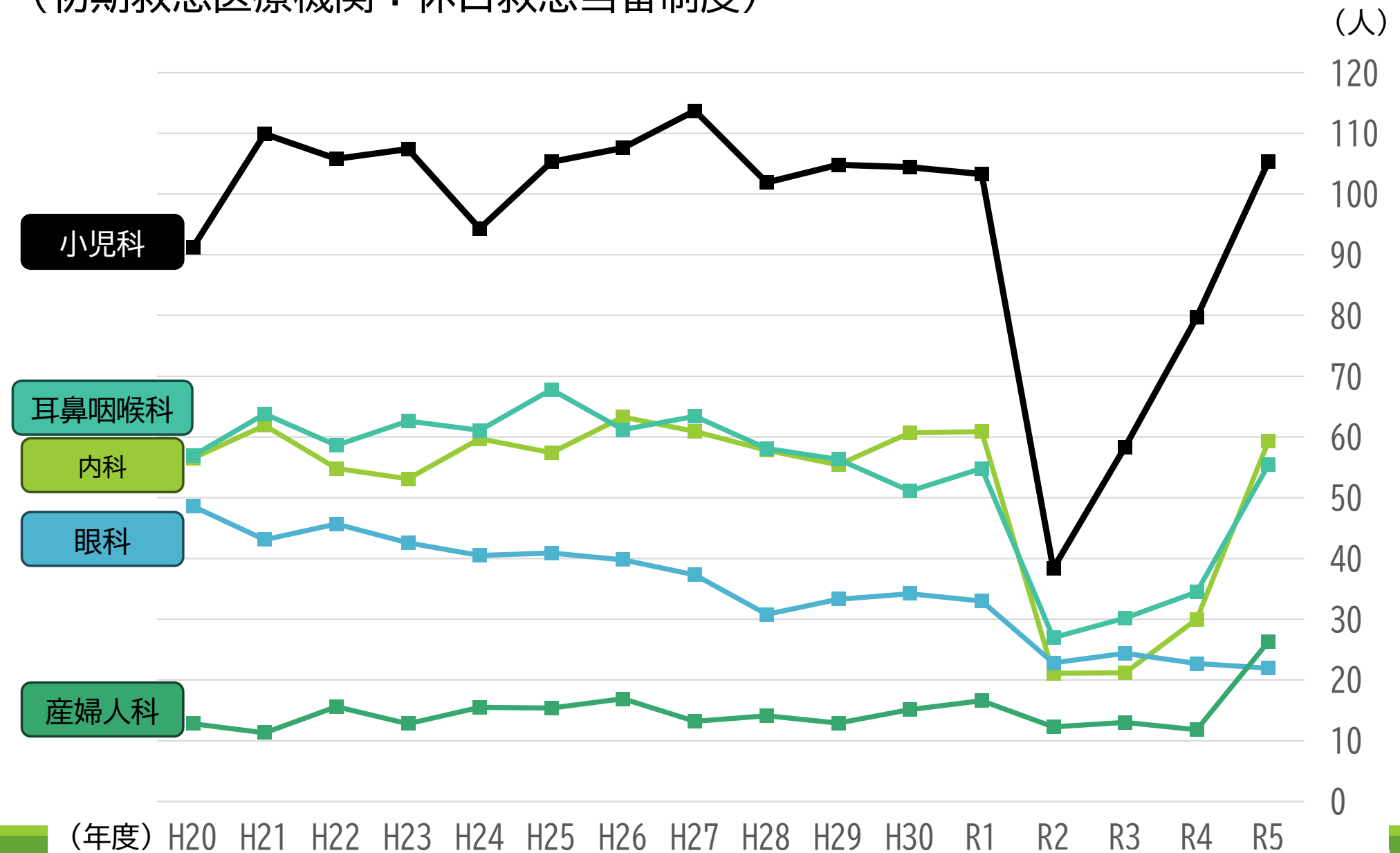
●参画医療機関数（初期救急医療機関：外科系初期救急医療機関制度）



※札幌市医師会データより分析

統計情報

● 1 当番日 1 施設あたりの利用患者数 (初期救急医療機関：休日救急当番制度)

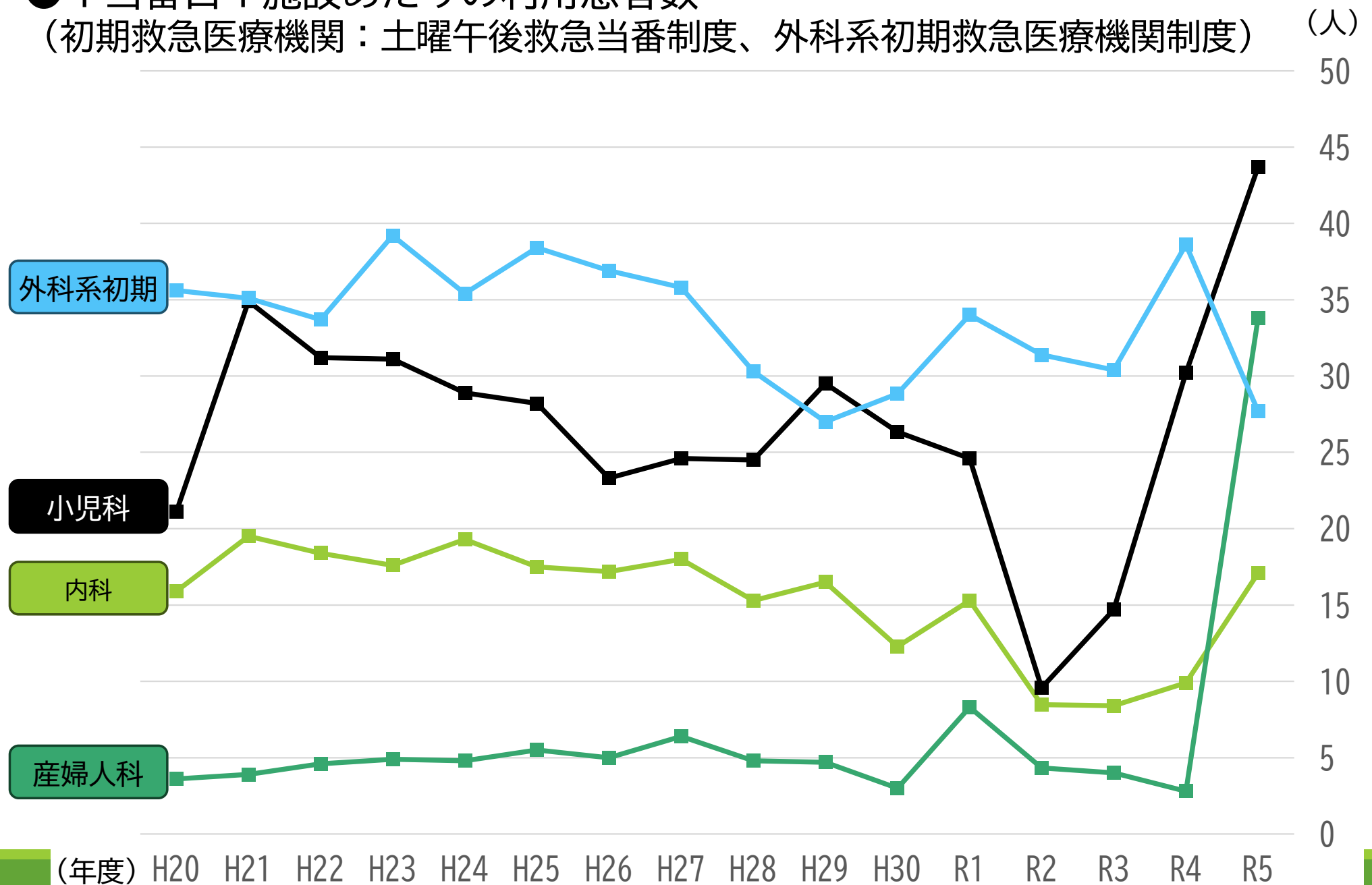


※札幌市医師会データより分析

統計情報

● 1 当番日 1 施設あたりの利用患者数

(初期救急医療機関：土曜午後救急当番制度、外科系初期救急医療機関制度)



※札幌市医師会データより分析

2 令和6年度の審議事項

令和6年度の審議事項（予定）

【令和6年10月9日札幌市医療体制審議会での確認事項】

① 救急医療体制の課題

- 外科系及び小児科の初期救急医療体制

② 救急医療に係るシステムの検証

- 救急医療『見える化』システム
- 転院調整支援システム

小児科救急医療体制

- 日曜・祝日等の小児科の休日当番医療機関の混雑が深刻化。
- 小児科の休日当番の参画医療機関数が減少、持続的な体制維持が困難。
- これらの課題を受け、夜間急病センターを小児科休日当番の診療拠点として日中活用することについて提案あり。

札幌市医療体制審議会

夜間急病センターを小児科休日当番の診療拠点として活用することを検討（第2回札幌市医療体制審議会で審議予定）

結果を踏まえ
審議を付託

札幌市救急医療体制検討部会

小児科初期救急医療体制の見直しを検討（予定）

3 本日の審議事項

① 救急医療体制の課題

外科系救急医療体制

審議事項

【審議事項（案）】

現在の当番制の維持が困難となっていることから、札幌市救急医療体制検討委員会の「札幌市の救急医療体制の見直しに関する意見のとりまとめ」（令和5年3月23日）を踏まえ、見直す体制の方向性について審議する。

1. 初期救急当番の診療時間帯について
2. 準当番医療機関の追加について
3. 拠点化について

札幌市の救急医療体制の見直しに関する意見のとりまとめ（令和5年3月23日 札幌市救急医療体制検討委員会）

- (1) 「救急告示医療機関制度」の名称を変更し、「外科系初期救急当番制度」とすることを求める。あわせて、救急病院等を定める省令に基づく救急病院及び救急診療所以外の医療機関についても当番制に参画可とすることを求める。
- (2) 外科系初期救急当番の診療時間帯について、運用実態にあわせ、二次救急当番と同様の時間帯とするよう求める。なお、通常診療の時間帯については救急告示医療機関全体で初期救急患者等の診療に対応することとする。
- (3) 現行の当番医療機関に加え、診療時間を翌朝9時ではなく、午後10時までとする「準当番医療機関」の区分を新たに追加することを求める。
- (4) 当番制による診療体制の維持が困難となっており、今後さらに厳しくなると見込まれることから、拠点的な施設等における診療体制への移行（拠点化）について、具体的な検討を進めることを求める。

外科系救急医療体制

審議事項

審議の方法

- 札幌市医療政策課が中心となって、関係機関の協力の下、体制の方向性等について意見交換を行うワーキンググループを設置し、部会に提案する意見をまとめる。その提案内容を参考に、本部会にて方向性を審議していく。

ワーキンググループのメンバー

- 初期及び二次救急体制の検討が必要なことから、拠点病院を含む外科系医療機関を中心に、協力を依頼する。

ワーキンググループの 構成メンバー（案）

No.	所属・役職等	氏名（敬称略）	備考
1	札幌市医師会救急医療部長	中村 雅則	部会委員
2	札幌市災害救急告示医療機関協議会	小林 大時	部会委員
3	札幌市外科医会	未定	外科系医会
4	札幌市整形外科医会	未定	外科系医会
5	札幌市脳神経外科医会	未定	外科系医会
6	けが・災害系病院	未定	二次医療機関
7	脳神経外科系病院	未定	二次医療機関
8	北海道医療センター	未定	拠点病院
9	手稲溪仁会病院	未定	拠点病院
10	勤医協中央病院	未定	拠点病院
11	札幌東徳洲会病院	未定	拠点病院
12	札幌徳洲会病院	未定	拠点病院

※事務局として、札幌市保健福祉局・消防局が参加

3 本日の審議事項

② 救急医療に係るシステム

救急医療『見える化』システム

- 利用状況

- 参加医療機関 58施設（令和6年11月末現在）

- 運用開始後の状況

- 令和6年2月 本運用開始
- 令和6年7月 利用に係るアンケート調査の実施
- 令和6年10月 医療機関との情報共有を目的としたWEBツールの運用開始
- 令和6年12月 一括要請機能の運用開始（予定）

救急医療『見える化』システム

審議事項

【審議事項（案）】

令和6年2月の本運用後の状況共有し、下記の事項等について課題を抽出、改善案の検討を行う。なお、本部会で審議する内容は、ワーキンググループにて素案を作成する。

(1) 運用ルール

- ・応需状況の適正表示(一定のルール化)
- ・救急隊の運用

(2) 仕様改善

- ・操作性等の向上(ダッシュボード、受入可否情報一覧、予後情報画面など)

(3) データ検証

- ・検証時期(スケジュール)の調整
- ・検討に必要なデータの整理、提供方法

(4) データ提供

- ・病院から「応需履歴に関するデータの提供(個別対応)」希望あり
- ・受入状況等のデータ公開

ワーキンググループの 構成メンバー（案）

システム構築時に御協力いただいたコアメンバーに改めて協力を依頼し、その他の構成員については部会委員に限定せず、必要に応じて適宜、追加する。方向性としては、これまでの構成員に継続を依頼する。

●札幌市救急医療体制検討小委員会のワーキンググループメンバー

No.	所 属 ・ 役 職 等	氏 名（敬称略）	備 考
1	札幌医科大学 医学部 救急医学講座 准教授	上村 修二	コアメンバー
2	手稲溪仁会病院 救命救急センター長	奈良 理	コアメンバー
3	北海道大学病院 救急科 准教授	早川 峰司	コアメンバー
4	札幌市医師会 救急医療部長	中村 雅則	医師会
5	札幌東徳洲会病院 救急集中治療センター 副センター長	増井 伸高	ER系
6	勤医協中央病院 救急センター長	田口 大	ER系
7	札幌徳洲会病院 救急科部長	平山 傑	ER系
8	中村記念病院 副院長	瀬尾 善宣	脳神経外科
9	北海道大学病院 循環器内科 准教授	永井 利幸	循環器内科

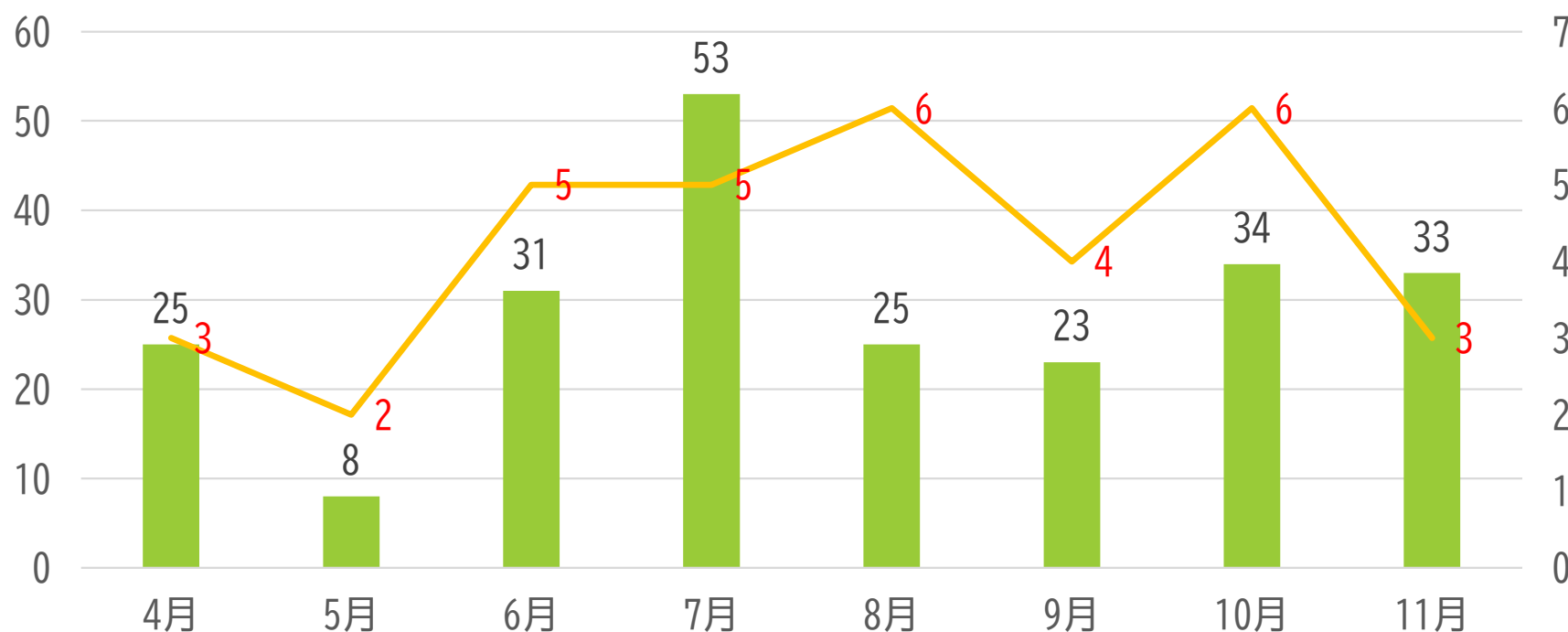
※事務局として、札幌市保健福祉局・消防局が参加

転院調整支援システム

●利用状況

●参加医療機関 86施設（令和6年11月末現在）

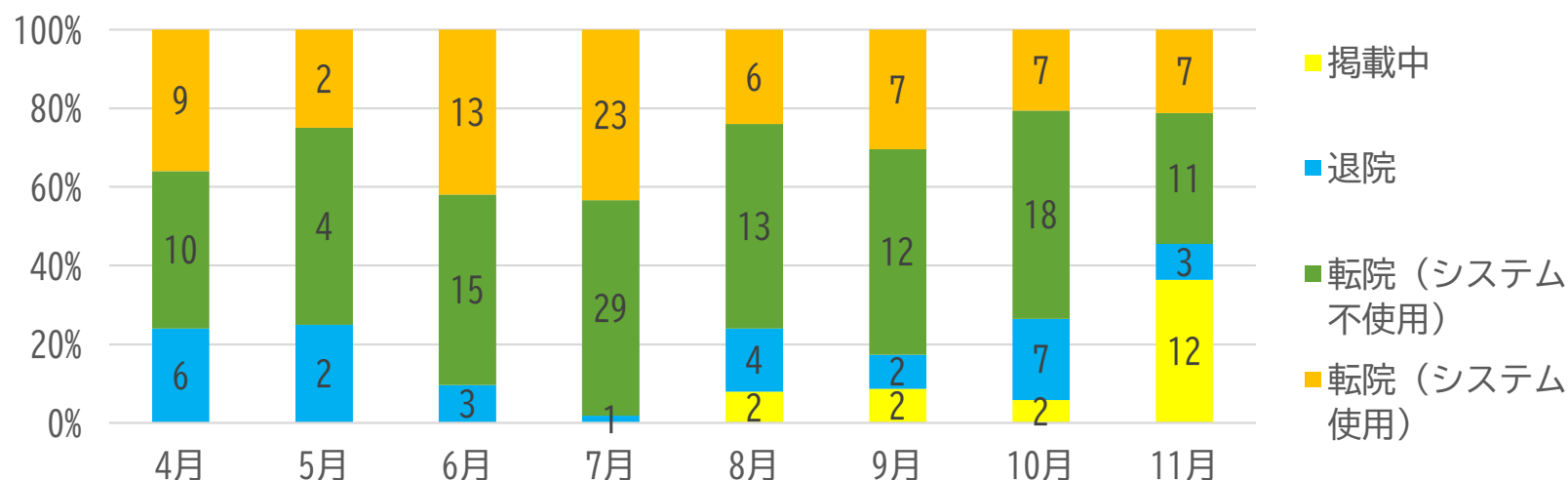
●患者掲載数（棒グラフ・左軸）・掲載医療機関数（折れ線グラフ・右軸）



転院調整支援システム

●利用状況

●掲載された患者の転帰



●運用開始後の状況

- 令和6年4月 本運用開始
- 令和6年12月 利用に係るアンケート調査の実施(予定)

転院調整支援システム

審議事項

【審議事項（案）】

令和6年4月の本運用後の状況共有し、下記事項について課題を抽出、改善案の検討を行う。なお、本部会で審議する内容は、ワーキンググループにて素案を作成する。

(1) 運用ルール

- ・入力方法の標準化(一定のルール化)

(2) 仕様改善

- ・操作性等の向上(ソート機能、通知設定など)

(3) データ検証

- ・検証時期(スケジュール)の調整
- ・検討に必要なデータの整理、提供方法

(4) 利用者の拡大

- ・在宅医療機関
- ・市外医療機関

ワーキンググループの 構成メンバー（案）

システム構築時に御協力いただいたコアメンバーに改めて協力を依頼し、その他の構成員については部会委員に限定せず、必要に応じて適宜、追加する。方向性としては、これまでの構成員に継続を依頼する。

●札幌市救急医療体制検討小委員会のワーキンググループメンバー

No.	所 属 ・ 役 職 等	氏 名（敬称略）	備 考
1	札幌医科大学 医学部 救急医学講座 准教授	上村 修二	コアメンバー
2	手稲溪仁会病院 救命救急センター長	奈良 理	コアメンバー
3	北海道大学病院 救急科 准教授	早川 峰司	コアメンバー
4	札幌白石記念病院 患者サポートセンター 室長	清野 圭司	MSW
5	手稲溪仁会病院 患者サポートセンター 地域連携・医療相談室 主任補佐	辻丸 栞	MSW
6	北海道大学病院 医療技術部ソーシャルワーカー部門	杉本 由佳	MSW

※事務局として、札幌市保健福祉局が参加

4 今後のスケジュール

今後のスケジュール（予定）

	令和6年		令和7年				
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降（次年度）
審議会 （親会）	● 【第1回】（10/9）			● 【第2回】（1月下旬頃）			● 【R7第1回】（R7年4月頃）
救急医療 検討部会			● 【第1回】（12/5）	● 【第2回】（1月下旬～2月上旬）		● 【第3回】（3月中旬）	
WG （外科系救急）				1～2回の実施			令和7年度も 引き続き検討
WG （SIRIUS）				1～2回の実施			
WG （転院調整支援）				1～2回の実施			

第2回（1月下旬～2月上旬）の 審議事項（案）

◆救急医療の課題

- 外科系救急医療体制：整備の方向性について
- 小児科救急医療体制：初期救急医療体制の整備

◆令和7年度の救急医療体制

- 救急医療体制に係る変更事項について